

自主調査研究報告 [継続報告]

寒地港湾技術の体系化に関する調査研究 (他2A-3-③)	大分類	他2A
	中分類	他2A-3

1. 目的

北海道の港湾整備は明治時代から本格的に進められ、その整備に関する資料が当センターに現存している。また、会員から寄贈された貴重な文献も数多くある。これらの歴史的文献には、港湾整備の港湾整備の際の施設計画、予算、整備手法などに関する経緯や内容も記述されている。

しかしながら、これらの貴重な文献も含め、当センターが保有する様々な技術情報に関する資料は、現在の港湾・漁港整備あるいは研究等に携わる方々に十分利活用されていないのが現状である。さらに、現存する歴史的文献は古いものが多く、印刷の劣化や紛失などの恐れも懸念されている。

当センターが保管する歴史的文献や技術資料は、今後の港湾・漁港整備や研究等の参考として貴重なものであるが、その利活用が少ない現状を踏まえ、より多くの方々に利活用していただき易いような方策を検討する。また、老朽化している貴重な歴史的文献はデジタル化して保存し、会員はもとより広く一般市民にもその存在を知っていただく方策も検討する。

これらの取り組みを通じて、港湾・漁港整備や研究等に携わる方々や当センター会員へのサービス向上を図るとともに、過去からの寒冷地港湾に関する技術・体系を広く蓄積・提供し若手技術者へも伝承することで、当センターの社会的役割の推進を図る。

2. 実施内容

歴史的文献のデジタル化に向けては、試行と

して希少性が高く老朽化度合の進んでいる2冊についてスキニング作業を行った。また、当センターが保管する図書（歴史的文献・技術資料）の閲覧者が少ないことを踏まえ、令和4年度は図書リストの分類や検索方法の見直しなど、より利便性の高い図書サービスの提供について検討を行った。

3. 主要な結論

歴史的文献のスキニングは、破損に配慮しながら1ページ毎に手作業で行うため、1冊(500ページ程度)当たり2週間ほどの時間と数万円を要することが判った。

また、現在の図書リストを大幅に見直すには相当の作業を要することから、利用者が求める図書を探しやすいよう、現在のリストをベースにカテゴリ、書籍名、著者名などを検索キーワードに追加するなどの方法が現実的であると判断された。

4. 今後の対応

デジタル化すべき歴史的文献(17冊)のうち残り15冊は、保存ために随時デジタル化を進めることとする。

図書サービスの利便性向上では、現在の図書リストをベースに、より検索しやすい方法への改良を進めるとともに、当センターが貴重な歴史的文献や技術資料を多数保有していることを知ってもらうために、ホームページ等を活用してより広く紹介する取り組みを進める。